様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１３５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４５２０１４９

研究課題名（和文）ゴードン・マッタ＝クラークの作品と１９７０年代の自然観

研究課題名（英文）The Work of Gordon Matta-Clark and Conceptions of Nature in the 1970s

研究代表者
平野　千枝子（HIRANO, Chieko）

山梨大学・総合研究部・准教授

研究者番号：２０４０２０１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　ゴードン・マッタ＝クラークは都市のなかに放置された建物に入り込み、かつて住人をとり囲んでいた床や壁を切り取って新しい空間に変える行為を行った。こうした行為は、既存の建物から思いがけない新しい構造を生み出すとともに、人々がどのような空間に生きていたのか、それはなぜ廃墟となったのかを考えさせるものだった。
　マッタ＝クラークはこのような活動を始める前に、樹木を用いた作品を制作し、合わせて植物を大量に描いていたが、これらの建築に関する作品との関係は不明だった。本研究では、マッタ＝クラークが、環境によって変化し、環境を変化させる樹木を、我々を取り囲む建築を考え直すときのモデルとした可能性を提起した。

研究成果の概要（英文）：Gordon Matta-Clark intervened into abandoned buildings, cut into and removed walls and floors which had once surrounded inhabitants. Such activities brought unanticipated structures from the usual buildings. They also offered insights into the character of our living environment and the ways they came to be abandoned.
Before starting working with buildings, Matta-Clark worked with trees and drew a lot of plants, too. However, the relationship of these early works and the ‘building cuts’ works was obscure. In this research, I propose to see the trees as the models of structures which transform their environment one another. ‘Tree’ can be a clue for him to think of the relationship of buildings and their environments.

研究分野：美術史

キーワード：20世紀美術　アメリカ美術

１．研究開始当初の背景

ゴードン・マッタ＝クラークは 1970 年代に、変化する都市にとり残された建物の中に入り、床や壁を切り取った作品で知られている。これらの作品は、高度成長期の都市化に伴って発生した諸問題、とりわけ都市に集中した人々の規格的な空間への封じ込めと孤立への批判と見なされてきた。マッタ＝クラーク自身も、こうした状況や、この状況を促進したモダニズム建築に対して批判を行っている。

しかし、マッタ＝クラークが建物に対する作品を始める以前の活動の意味は、十分検討されてこなかった。研究代表者は、彼の初期の活動に注目するなかで食のモティーフを検討し、それを都市と自然を結びつけるものと考えた。本研究は、そこで見出されたマッタ＝クラークの自然観を、さらに探求しようとするものだった。

２．研究の目的

本研究は、ゴードン・マッタ＝クラークの 1969 年から 1973 年までの、樹木を描いたり樹木を用いた諸作品を検討し、マッタ＝クラークの自然観を明らかにすることにより、マッタ＝クラークの都市をめぐる活動にも新たな意味を見いだすことを目的とした。

３．研究の方法

（１）素描作品の分析

マッタ＝クラークは、建築や住居に関わる作品の予備的スケッチだけでなく、樹木の素描を多数残している。これらの全体像を把握し、自然をモティーフとした素描の特質を明らかにする。

（２）アース・アートとの関係

マッタ＝クラークは、1969 年の「アース・アート」展の展示作業に参加し、そこで出会った芸術家と交流を続けた。彼らの作品との関係を検討するために、アース・アートに関する研究を概観する。

（３）1970 年代の思潮との関係

カナダ建築センター所蔵のマッタ＝クラーク旧蔵書を手がかりに、同時代の思想的環境とマッタ＝クラークの自然観の関係を考察する。

４．研究成果

（１）素描作品の分析

1997 年にゲネラリ財団（ウィーン）で行われたマッタ＝クラークの素描の展覧会の際に調査・作成されたカタログ①を出発点として、デヴィッド・ツヴィルナー・ギャラリーで２度の素描作品調査を行った。これにより樹木をモティーフとした作品のデータベースを作成した。また、植物の素描に直接言及したインタビュウ音声資料を入手して、分析した。その結果、樹木の素描に、建築と互換され、建築を改変する構築性、暗号的性格、エネルギーの回路としての都市とのアナロジーを見いだした。

（２）アース・アートとの関係

文献による研究のほか、「エンド・オブ・ジ・アース：1974 年までのランド・アート」展②調査、コーネル大学美術館アーカイヴでの「アース・アート」展資料調査、スミソニアン研究所アメリカ美術アーカイヴ（スミッソン＆ホルト・コレクション、ドゥワン画廊コレクション）での「アースワークス」展資料の調査を行なった。

以上から、とりわけロバート・スミッソンからの影響を考察した。スミッソンにとって重要な概念であった「エントロピー」がこれまでのマッタ＝クラーク評価において重視されてきたのに対して、マッタ＝クラーク作品には、より循環的な自然観をみることができることを提起した。

（３）1970 年代の思潮との関係

マッタ＝クラーク旧蔵書と同じ本や、これらの本の日本語訳等を収集し、マッタ＝クラークの読書歴を調査した。また、旧蔵書を所蔵するカナダ建築センターで、蔵書の書き込み等を精査した。

Ｍ．バーマンの著述③から、マッタ＝クラ

ークの蔵書の、錬金術、ユング、サイバネティクスなどの主題を、グレゴリー・ベイトソンに代表される当時の新たな関係論の連関の中で捉える視点を示唆された。また、1960-70 年代の美術を「エコロジー」から論じる J．ネスビットの研究④等を手がかりに、マッタ＝クラークの自然観と、作品の変化を関係の連環に委ねるポスト・ミニマリズムとの関連性を見出した。

以上のことから、マッタ＝クラークの初期作品における樹木と、のちの建築に介入する作品との関係が考察できる。彼は、土壌から水や鉱物成分を吸い上げ、上に向かって伸び、環境に影響を及ぼし、また、環境によっては枯れていく樹木を、エネルギーの循環のモデルと見なしていた可能性が高い。このことから、樹木と建築物を二重化する素描や作品（《ツリー・ダンス》または《ツリー・ハウス》）を、モダニズム建築に対する批判的形象、アレゴリーとして理解できる。建物の切断はこれまで、モダニズム建築への批判であると同時に、絶えず破壊されていく都市の強調とも見なされてきた。しかし初期の作品を重視すれば、建築を都市のエネルギー循環の一環として位置付け直そうとする視点を、これに加えることができる。マッタ＝クラークの建築改変は、「呼吸する建築」と言うべきイメージを喚起するものなのである。

本研究課題については申請当初、小展示による作品の紹介とそこでの配布物による成果発表を計画していたが、関係者との調整等から展覧会は先送りされた。そのためこれに代えて 2015 年度末に研究フォーラムを企画開催し、2016 年度に研究期間を延長した。2016（平成 28）年度（最終年度）は、研究フォーラムの記録として報告書を作成した。ひきつづき、展覧会等により研究の成果を発信する予定である。

〈参考文献〉

① Sabine Breitwieser, *Reorganizing Structures by Drawing Through it: Zeichnung bei Gordon Matta-Clark*, Generali Foundation, Wien, 1997.

②Philipp Kaiser and Miwon Kwon, *Ends of the Earth: Land Art to 1974*, Museum of Contemporary Art, Los Angeles and Haus der Kunst, Munich, 2013.

③モリス・バーマン『デカルトからベイトソンへ：世界の再魔術化』（柴田元幸訳）国文社、1989 年。（Morris Berman, *The Reenchantment of the World*, Cornell University Press, 1981.）

④James Nisbet, *Ecologies, Environments, and Energy Systems in Art of the 1960s and 1970s*, The MIT Press, 2014.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計１件）

①平野千枝子、樹木と結晶：スミッソンとマッタ＝クラークの自然、山梨大学教育人間科学部紀要、査読無、16 巻、2015、249-258

〔学会発表〕（計１件）

①平野千枝子、ゴードン・マッタ＝クラークの初期作品と「エコロジー」、美学会東部会例会、東京大学（東京都文京区）、2016 年 9 月 24 日

〔その他〕

口頭発表

平野千枝子、服部浩之「（地域美学スタディ vol.3） 食と場：ゴードン・マッタ＝クラークの実践を通じて」港まちポットラック・ビルディング（愛知県名古屋市）、2016 年 10 月 13 日

平野千枝子、鈴木了二、土屋誠一「（研究フォーラム）ゴードン・マッタ＝クラーク：建築と写真」山梨大学（山梨県甲府市）、2016 年 3 月 5 日

平野千枝子、上崎千、小西信之「（恵比寿映像祭・シンポジウム B）ランドアートの話」、

日仏会館（東京都港区）、2016 年 2 月 13 日
平野千枝子「(光明寺会館学校 vol.2) ゴードン・マッタ＝クラーク(1943-78) 活動／作品／記録」光明寺会館（広島県尾道市）2014 年 7 月 11 日

報告書発行
平野千枝子、鈴木了二、土屋誠一、ゴードン・マッタ＝クラーク：建築と写真、2017、73

ホームページ等
山梨大学研究者総覧
http://nerdb-re.yamanashi.ac.jp/scripts/websearch/index.htm

６．研究組織
(1) 研究代表者
平野　千枝子（HIRANO, Chieko）
山梨大学・総合研究部・准教授
研究者番号：２０４０２０１８